
そのポケモン、ハチャメチャにつき

デュランダル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そのポケモン、ハチャメチャにつき

【Zコード】

N2721Y

【作者名】

デュランダル

【あらすじ】

これは作者、デュランダルがポケモンになり、いろいろな世界を旅し、世界を救うアドベンチャー！今、その物語が始まろうとしている

そのポケモン、前世は事故につきー（前書き）

はい。新しく始めました！ちなみにプロローグはありません。（本当はこれがプロローグです：）偉い人にはそれがわからんのです！・・・うそそ！…だから石投げないで！と・・とにかくいきなり前編～後編から始まります；

それでは

ソル「どうぞ！」

つて何で君がいるのオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

ソル「更新してくんないから。」

事情だよ・・・

ソル（他の人の作品しか見てないくせに・・・）

そのポケモン、前世は事故につき1

・・・XX年、月、×日。ある1人の人間が事故で死んだ。だが世の中は物騒だ。1日に2人や3人死ぬ時だつてある。むしろそつちの方がかなり多い。しかし、その日はその1人以外だれも不幸なことすら無くすごせた。しかし、その世界は30年後滅びたのだつた・・・・・

・・・これはあるポケモンの物語である。

そのポケモン、前世は事故につき（後書き）

・・・ふう。なんで疲れてるかつて？ソル君ボコして帰らせるのが
でしゅ＊＊＊＊（つA、）

はあ・・・でも更新は続けますよ！

レックス「本当かな？」

ナルク「もしかしてこっちのはかませ犬扱いか？」

チツ・・・（なんでいんだよめんどくせえ・・・）（黒激怒）

2人「なんか嫌な予感が・・・；」

・・・とりあえず・・・殺す。

この後はご想像にお任せします：

やのポケモン、前世せ事故ひつわ（繪書セ）

とつあえず続おじです……やあー前回せみなれすいませんね；
兎に角、じれからじとじん書いて逝をますよー！
それでは
じつわ！

そのポケモン、前世は事故につけられ

日が覚めたら、俺はすべて真っ白のハガーンのような場所にいた。少しほとこ（「コドモー！？みたいな。」）なのだが俺はなぜこんな所にいるかわかる。（呟がする）俺は死んだ。事故にあって。

あの日、なぜか占い（テレビの）で俺の運勢ほぼ1位。特に興味があるわけではない。暇つぶしに見ていく程度だ。しかし1位に（よ）い意味で）なつて悪い気分はない。

だからあの日、なんかいいことないかなと思つて外に出てみたらこれだ。だが外に出てちょっと散歩がてらいいこと探し、どこに遊びやなかつた。騒がしいから行つてみればトラックがなんか暴走したつて言つてもいいぐらいのスピードで走つてた。（足が生えたー！とか言つうなよー！そつゆう意味じやないからなー）

・・・・・それにぶつかつた。それだけ言えばわかるだろ。衝突事故で死亡したって事だ。

・・・つて説明してたら変なのが来た。とりあえず聞いてみよう。いろいろと。

「おー、おひさん。あんただれじやい。」

「うふ、おひさんてー！おひさんじやねえよー！神だつづーのーそれにねつさんつてゆづ年でもねえし」

「じゃあ 辛の人だつけ？」

芸人・ハリセンボンはるか「字が違うし芸人扱いかー・神だつて言つてんだろうーが！」

「マジド」「マジでーーー。」

・・・「ひざこけだ我謹。」

「ほんと?」

「ほんと」

「いつや?」

神「ほんと」

「生きかえれる?」

神「転生ならOK」

「ゲームキャラOK?」

神「詳しいことは質問終わつてからだけOK」

こんな質問が1時間ぐらい続いてその後とつあえず・・・

「つ=～ - ん・・・」

神「おい、 =とーとーを混ぜるな。」

「どうあえず、どう」とへ

神「だ～か～ら～はあ・もうこ～いや・もう一回こ～ひだ? 轉生〇K
だけどポケモン以外無理だつての! わかる! -?」

「なんで?」

神「しるか! 一番偉い神が言つたことなんだから強制だ!」

「ええ～～俺が?」

神「そ～だ。なぜかお前だけ」

「期待されてもなあ・・・

神「・・・もうじりね・・・どうあえずそのほかにこ～ひとね?」

「えーと・・・チートまではいかねえじりこまでだけでいいから強
くして?」

神? 「い～お」 「(^ - ^)

「あとは・・・ポケモンって空の探検隊みたいな世界なわけ?」

神? 「そ～だね とにかく最初はプリリのギルドみたいなもんだ
お」 「(^ - ^)

「・・・・・・みたいなものって?」

神? 「キャラがちがうといふがアルかも的な? ～～

「・・・おい」

神「なんだ?」

「なんで紙読んでんだ? &なんか軽くね? &なんかつざー。」

神「一番偉い神が送ってきた紙に書いてあつた。」

「な~る。」

神「あと記憶は○×だお &名前も決めてるお つて書いてある。」

「名前つて?」

神「なんか魔法で書かれてるんやばそつだから後回し。」

「強引だな・その神・」

神「そだな・とにかく簡単に説明する。」

・ポケモンはなるまでわからない

・技は練習すればオリ技もできる。(努力次第)

・少しチートあり。(自分はそつだけど相手は・・・稀に。)

・伝説・幻にはなれない。

・必ずしも同じ世界なわけではない

神「OK?」

OK

神「じゃあ最後。名前。」

「ほーい」

「神一 名前は・・・デュランダルだつてさ。」

デュランダル「議長かよ！」

テニラルー なんだよ？」

「お前の仕事がなってゐる」

神「別に死ぬとかじや無いから。てゆうかもう死んでるし。」

デュランダル『ヨカタWW』(^_o^)

神「じゃあいいで別れだな。」（ウザイのは無視）

デュランダル「あ、そつか。そんじやな！」

神「ぐわんぶあじゅえ～～～」

「

・・・

前 言 撤 回

デュランダル「あ・・うん。じゃね。」

神「ちよ、お三」

その後、俺の意識は途絶えた

神「やべ・・・2つ言い忘れた・・・もう無理か・・・」

そのポケモン、前世は事故に巻きこ（後書き）

余談ですが、俺は、いつも俺、目上の方には僕、としています。
別に2重人格ではありません。

本当はこっちが本命です；

コラボしてくださる方募集します！コラボしてくださる方は感想に
コラボの事、出すポケモン、技、（オリ技可）プロフィールを書いて
ください！なお、なにか無い限り、続けていますので、よろしく
お願いします！！

そのポケモン、記憶喪失につきー（前書き）

記憶つていつも前回の事じゃないです。

・・・感想がいきなり2つ・・・感激です！

ミゲールさん、フォックさん、本当にありがとうございますーーー！

そのポケモン、記憶喪失につきー

目覚めた俺は・・・え?

ちよ、おま、まで。

ポケモンじゃなかつたのか!? 何で人間なんだ!?

そんなことを考えていたら1匹のポケモンが話しかけてきた。

その瞬間トンデモナイコトが頭の中でおきた。

いろんな記憶が頭に入ってきた。なに? 話してほしいだと…? 無理だ!! 絶対に! 多すぎる!!

・・・とまあ、困難だったが、(説明になつてない) どうとか頭の整理をし終わった時、大嵐がおきた。

今乗つてるボートからして、耐えることは100%無理だということがバカでもわかる。

さらに、俺の近くにいるポケモンに向かつて雷が落ちてきた。

なんとかわからない。でも、助けなきやつて思った。

その瞬間、その時に、俺の意識は途絶えた。

そのポケモン、記憶喪失につき①（後書き）

嗚呼、短いよう・・・・・（泣）しかも俺、不幸だよう。はあ・・・

次回はパートナーの視点です。ほら、あの、海が〃・・・やばい。
ネタバレだけは阻止せねば！

と、いうわけで後は次回です。

コラボ・評価・感想お願いします！

そのポケモン、記憶喪失につき2（前書き）

更新遅

……………

い

スランプです……（Ｔ・Ｔ）

てゆーかやつと一つ思いついただけなんてひどいにもほどがあるよ
！ええ？なんとか言わんかい！このクソ神が！（激怒）

神「無理、そして無視。」

・・・・・殺す。

d f j h K S J H r f j d f o a e s g d a f u y i n f g o s y f z a g e k t f z O A E I r k i r i
A H f u a u g i f u y i n f g o s y f z a g e k t f z O A E I r k i r i
やりやおT W G り！……………！

「おお神よ、死んでしまつとは情けない」

ああ、疲れたーでもがんばる！

ちなみに今回は、違うポケモンの視点です。（準主人・・・ゲフン
ゲフン！…）

・・・ヒナレーショーンです。忘れるといこだつた・・・

とにかく！第4話目までいけました！ワー。

それでは

どうぞ！！

無限さん、ミゲールさん、フォックさん感想ありがとうございます
した！！

そのポケモン、記憶喪失につき2

ザザーネン・・・ザザーネン・・・ここは、とある海岸だ。そして、1匹のポケモンがその海岸の隅に倒れている。

？？？「う、うん……」

そのポケモンは何個もキズがあり、どこからどう見ても歩くのが無理、と言えるほどの大怪我をしている。

？？？「い、いには……」

そのポケモンはミカルゲ。いつもは笑っているような顔だが、さすがに今は笑っている状態ではない。

？？？「ひ、うう・・・くそ、目が霞む・・・う・・・もう・・・
だ・・め・・・だ」

そういうヒダサツーと倒れてしまった……

残っているのはあの大嵐だけだった……

そのまま……

あの大嵐は去つていい、きれいな青空になっていた。

そしてその街の海岸から戻つてその奥の方にある、1つのギルドがある。

ギルドとは、困っている人が依頼主となり、依頼をギルドに送り、ギルドがその依頼をやり、依頼主から報酬を貰う場所だ。

そのギルドの入り口にある一匹のポケモンがいる。

そのポケモンは、足が無く、頭と肩がやらめいていて目が鋭い。

それは、暗黒ポケモンのダークライだ。名前は、ダラクという。（名前をどこで知ったかは内緒）

ダラク「う~ん……ビーッショウ…」

その迷い方は、ギルドに入るのをためらっているかのようだ。早く入ってしまえばいいのに。

ダラク「でもこれは昔からの夢なんだ、ずっと前から入ろうと思つてたんだ！それにこの宝物だってあるんだ！よし、行こう！」

そうだ！がんばれダラク！負けるなダラク！……ハッ！「ゴホン／＼ちなみにギルドの入り口は鉄格子でふさがれていて、その前まで行くと、ポケモンが下から足型を見て（ポケモンの種類によつては足以外も）

確認した後、入れるという仕組みだ。

そしてダラクが鉄格子に近づいた時……いきなり下の方向から声がした。初めてのポケモン（人も？）には精神衛生上まことにようしない。

？？？「ポケモン発見！ポケモン発見！」

とこう声がしたとき、他の声も聞こえた。

？？？「誰の足型？誰の足型？」

すると先ほどの声がまたした。

？？？「足型はダークライ！足型はダークライ！」（足型なのか
？）

ダラク「わあ！－」

ダラクは驚き、サッと隠れてしまつた

ダラク「はあ・・・今日も駄目だつたか・・・」

“うやうやしく今回だけではなく、違う時も行つたことがあるらしい。

すると不思議な模様の石を取り出した

ダラク「この宝物を握り締めていけば勇氣も出るかと思つたんだ
けど・・・ダメだったか・・・」

ダラクは石をしまつた。そういう落ち込んでいるようだ。

ダラク「はあ・・・なんで僕ってこんなに臆病者なんだろう・・・
ホント情けないよ・・・」

そういうと、ダラクはギルドとは反対の方へ行つてしまつた。しかし、ある一匹のポケモンが見ていたことをダラクは知る由も無かつ

た。

？？？「おいズバット、今の見たかよ」

ズバット「ああ、もちろんだぜドガース」

ドガース「アイツなんか変なもん持つてたけどよ、もしかしてなんかの宝物なんじゃねーか？」

ズバット「そうに決まつてんだる。あんな石は他には見ねーからな。」

ドガース「見たところ、アイツはビクビクしてたからな。簡単に奪えそうだぜ。」

ズバット「そうだな。そんじやせつと奪つちまおーぜ。」

2人「ヒヒヒヒヒ・・・」

一匹はそう言って、ダラクの後をつけて行つた。

そのポケモン、記憶喪失につき2（後書き）

あーやつと書けたー；

疲れたーあ、でも次は早く書き込めそつです！

次回もお楽しみに！

そのポケモン、記憶喪失につき③（前書き）

うわーん（泣）更新遅れたよー（泣）最近逃走中作品見すぐたよー（だつて面白いんだもん！）○rz

こんな作者ですが宜しく！

でわ

レツチュゴー

そのポケモン、記憶喪失につき

いきなりですが注意。

2と3はつながってるようなものなので2を読んでから3を読みましょう。（別にそうしなくともノープログレム！（問題なし）と思う人は読めばいいじゃん！）

ダラク「今日もいけなかつたけど、ここはやつぱり癒されるね～」
「（癒）

ダラクは今、海岸にいる。なぜいるかは2を見よう。ちなみにこの海岸は夕方になるとクラブというポケモンが泡を周りに出す。そうすると、ちょうどきれいな景色になるのだ。（ダラク談）

ダラク「～～」

もはやダラクは頭がおかしいほどに和んでいる。後ろにきずいていないのは一目瞭然だ。

ドガース「なんかもうひとつそりいけば普通に奪えるんじゃない？」

ズバット「確かに・」

と、いうことで・・・ダラクー！おーい！・・・まだこりゃ・大切な物を奪われてるのにきずいてないよ・

ズバット「普通に盗れたな・・・」

ドガース「んじゃ もうとあの洞窟に逃げ込むとすつか」

ズバット「そだな」

あーあ、盗まれちゃった・・もー知らない・

ダラク「ん? なにがあるつていうか・・誰か倒れてるーー・」

そしてやつときずかれた主人公&主人公と正気に戻った準主人公。いろいろ不安だ。はあ・

ダラク「えーと・ビーヴィー・・・・・・と、とりあえずオレンのみで回復させてあげないと・・・えーと・・これでもない、あれでもない、グミ・・・回復じゃなーい! あーもう一オレンのみが見つからないー!」

ちなみに今ダラクは自分のポーチの中を探している。オレンのみはポーチの奥に入っているため出しにくいらしく。その上、ほぼ無限に中からいろんな物が出てくる。まさに四次元ポケットのようだ;

ダラク「あ、オボンのみがあるからいいか。ヒ、とにかく速く助けないと...こんなにすぐケガじゃすぐに死んじゃつよ...」

オボンのみなんてあつたのかよ。とまあシシコミが終わつたので説明に戻る。ダラクはとりあえずその場でできる応急処置をした。そしてさすがチート転生者の体質チートだからと応急処置のおかげで意識を取り戻したのだ。(説明するとしても長いので省略)

ミカルゲ「うーん……」「こは……」

ダラク「あ、よかつた……大丈夫?」

ミカルゲ「あ、もしかして助けてくれたのか? あんがとな!…」

ダラク「いやいや、倒れてる人がいたら助けてあげないとね」

ミカルゲ「見た目軽く怖めだけど結構優しいんだな!」

ダラク「(気にしてる事言われた……。) そ、そつ? あ、
そうだ、僕はダラク。君は?」

ミカルゲ「えーとね、デュランダルっていうんだ。それ以外はな
にもかも忘れちまってるんだ。」

ダラク「うーんとね、今どんでもない言葉が飛び出してきた気が
するんだけど氣のせいかな?…?」

デュランダル「え? 記憶が無いって所?」

ダラク「マジで? (へへへ;)」

デュランダル「……マジで。」

その瞬間、海岸からとてつもない叫び声が聞こえ、その後、この町
での「不思議の1つになったのだった……」

そのポケモン、記憶喪失につき③（後書き）

うわー・ミゲールさんすいません・コラボのことですが、都合により、次回になりました・本当にスイマセン・

ちなみに、まだまだ募集＆感想・評価、お願いします！

活動報告始めました。ヒマな人はみてね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2721y/>

そのポケモン、ハチャメチャにつき

2011年11月17日21時09分発行